

【研究論文】 日本語の依頼の意味で使われる可能形式の研究

—依頼相手との関係による可能形式の違い—

村田マルゲティッチ 恵美

日本大学大学院総合社会情報研究科後期課程

Potential Expressions in Japanese Used at Requesting Scenes

—Differences in Potential form Depending on the Relationship—

MURATAMARGETIĆ Emi

Nihon University, Graduate School of Social and Cultural Studies

Potential expressions used for requesting situations in Japanese were researched, including their relationship between speaker and listener. The most common type I verbs were used in the possible expressions that appeared in requesting situations in Japanese. It was also found that listeners sometimes felt impolite when using only the potential verb. It was pointed out that Japanese language learners often use the "dekiru" very often, and that it is difficult for them to change verb forms. However, in order to avoid the possibility that Japanese language learners may be perceived as impolite by listeners in unintended ways, it may be necessary to present potential expressions that can be used when introducing request expressions, or to inform learners that using a potential verb by itself might make the other person think the speaker is impolite.

1. はじめに

日本語の可能表現は能力可能や状況可能を示すだけでなく、依頼場面でも使われることがある。例えば英語の依頼場面で可能表現が使われているように、異なる言語でも可能表現が依頼の意味で使われることはある。現在筆者は、クロアチアで日本語を教えているが、クロアチア語にも可能表現があり、依頼場面で可能表現が使われることもある。しかしながらクロアチア母語話者がクロアチア語で可能を表す *moći* を日本語に訳して依頼を行ったとき、コミュニケーションに齟齬が生じた場面に遭遇した。日本語でもクロアチア語でも依頼場面では可能形式を使用することがあるのに、なぜこのような問題が起きたのだろうか。日本語とクロアチア語では、依頼場面における可能表現の用法にどのような違いがあるのだろうか。もし、言語によって用法に違いがあるのであれば、日本語学習者が母語の干渉を引き起こす

ことが考えられる。

そこで本研究では依頼場面で使われる可能形式と人間関係に焦点を当て、依頼場面で使われる可能形式について分析を行う。まず日本語の小説から依頼の意味で使われた可能形式の抽出を行い、次に抽出した可能形式を親しい人間関係と親しくない人間関係にわけてから、話し手と相手との上下関係を加えることにより、依頼の意味で使われる可能形式と人間関係について本論で纏める。

2. 先行研究

2.1 日本語の可能表現の研究

日本語の可能表現の研究は、可能表現が持つ意味用法や形式を分析する研究（渋谷、1993a；寺村、1982；日本語記述文法研究、2020；宮島・仁田編、1996）や、日本語と外国語の可能表現を比較し分析する研究（高、2010；関、2013；石、2019 など）、

第二言語習得理論の立場からの研究（荒井、2006；小柳・峯、2016；渋谷、1993b；渋谷、1998；森、2014）、語用論の立場からの研究（市川、1991；加藤、2003、2015、2016；渋谷、1993a；寺村、1982）など様々な立場からの研究が行われている。

日本語記述文法研究会（2020）は、可能表現をヴォイスに分類し、可能構文と呼んでいる可能構文の意味・用法は、動作の実現が可能・不可能である条件や理由によって能力可能と状況可能に分けられるが、動作の実現までを含めて言う場合は、潜在可能と実現可能にわけられるとしている。そして、可能形式を可能構文の述語と呼び、「I型動詞」は-rare-ruに、「II型動詞」は-re-ruに接続し、スル動詞と動詞の来るは「～できる」と「来られる」であるとしている。また「～ことができる」「～（し）かねる」「～（し）うる」「～（し）える」も、その他の可能構文として挙げている。

2.1.2 依頼場面で使用される可能形式の研究

依頼場面で使用される可能形式に着目して分析を行ったものは、前田（2021）や金（2022）などまだ少ない。

依頼場面で「もらう・いただく」の授受動詞を可能表現にすると、相手の行為の実現可能性を問うことが、相手の動作実現を依頼することになるため、依頼として機能するようになる（前田 2021）が、日本語学習者にとってその使用は難しい。その理由として、前田（2021）は「～もらう」「～いただく」を用いた可能表現の種類の多さ指摘している。敬語や非敬語など相手への丁寧さを考慮すると、主語が受け手である「～いただく」「～もらう」のバリエーションは、太線で囲んだ「もらえる」から「いただけませんか」まで19種類もあると述べ、「～してもらえる？」のバリエーションを体系化した（図1）。「～してもらえる？」のバリエーションでは、「～もらえる」に否定、推量、否定推量が接続するごとに丁寧度は高くなり、「～もらえる」から「～いただける」にかけても丁寧度は増すと述べ矢印で示している。そして日本語学習者には「～ていただけますか」「～てもらえますか」をひとまとまりの依頼表現として理解・運用できるよう教えることを推

奨している。しかし授受動詞以外の可能形式については述べられていなかった。

丁寧さ

		1人称主語+もらう+可能+疑問			
			否定	推量	否定推量
非敬語	普通体	もらえ る？	もらえな い？	【もら えるだ ろうか】	【もらえ ないだ ろうか】
	丁寧体	もらえま す(か)？	もらえま せんか？	もらえ るでし ょうか	もらえな いでしょ うか
敬語	普通体	いただけ る？	いただけ ない？	【いた だけの だろう か】	【いただ けないだ ろうか】
	丁寧体	いただけ ます (か)	いただけ ません (か)？	いただ けます でしょ うか	いただ けないで しょうか
					いただけ ません しょうか

図1 「～してもらえる？」のバリエーション

出所：前田（2021：p.58）

また、金（2022）は依頼表現で使用される可能形式で授受表現を含む形式を「～ていただける系」、授受表現を含まない形式を「～できる系」と呼び、2つの可能形式が表す丁寧度について分析を行っている。

「～ていただける」系を使用した依頼表現は、相手の意志を直接尋ねず、間接的に相手の「(潜在的)可能性」と「意志性」の両方を含めて問うが、「～できる」系は相手の「(潜在的)可能性のみを尋ねる形を

とっているため、丁寧さに劣ると説明している。しかし、下記の(1)(2)のような作例から分析を行っていたため、依頼場面で使われている可能形式の種類を調べるには網羅されているとは言えないだろう。

- (1) 私の代わりに会議に出席していただけませんか。
(金 2022 p.40)
- (2) 私の代わりに会議に出席できませんか
(金 2022 p.40)

また金(2022)は、授受表現を含む形を「～いただける」系、含まない形を「～できる」系でわけているが、この「～できる」系の中には「(お金を)くずす」や「～になる」のI型動詞を含んでいたりと、「～ことができる」には言及していなかったりした。

2.2 本研究の位置づけと研究課題

以上のように、依頼場面で用いられる授受動詞の可能形式を用いた表現は可能表現は「～もらえる」から「～いただけませんか」までバリエーションが多いこと、授受表現を含む「～ていただける」系の可能形式は依頼場面では丁寧さを表せるが、授受表現を含まない「～できる」系の可能形式は丁寧さが劣ることが指摘されている。しかし、授受動詞以外の可能形式はあまり検討されていなかった。

そのため本研究では日本語文法の細目を詳解する日本語記述文法研究会(2020)が示す可能構文をもとに、日本語の小説から依頼場面で使用される可能形式を抽出し、依頼場面で使用される可能形式について整理を行う。そして依頼場面で使われる可能形式と相手との関係性も含めた可能表現の様相を明らかにする。

また、これまでの研究は作例分析であったため、作例ではなく、小説や映画やコーパスなど実際の会話で調べてみる必要がある。本研究では、小説にどのような可能形式が依頼の場面で使われているのかを調べるため、日本文藝家協会が2015年と2019年に発行した短編集に収められている合計29作品を対象に、依頼場面ではどのような可能表現が使われているのか、それは人間関係によって違いがあるのかを検討する。具体的な研究課題は以下のとおりで

ある。

- 【研究課題1】どのような可能形式が依頼の場面で使われているか。
- 【研究課題2】依頼場面に見られる可能形式は、依頼相手との関係によってどのような違いがみられるのか。

3. 調査内容

3.1 調査方法

『短篇ベストコレクションー現代の小説2015』と『短篇ベストコレクションー現代の小説2019』から依頼場面に使用されている可能形式を抽出した。この小説は、前年度に日本国内で刊行された全文芸誌から優れた作品を日本文藝家協会の編集員が選出しまとめたものである。本書には、2015年版は11作品が、2019年版には18作品が収められている。日本文藝家協会が選んだ多くの優れた作家の文体にあたることのできるため、これらの短編集を使用することにした。掲載されている小説は以下のとおりである。抽出元の書誌情報は以下のように略号で示した。

表1 書籍情報と略号

書誌情報		略号
『短篇ベストコレクションー現代の小説2015』	浅田次郎(2014)「流離人」『オール読物』8月号	流離人
	飛鳥井千砂(2014)「夜の小人」『小説宝石』8月号	夜の
	井上荒野(2014)「うそ」『オール読物』10月号	うそ
	奥田英朗(2014)「正雄の秋」『小説すばる』11月号	正雄
	小池真理子(2014)「テンと月」『小説現代』5月号	テン
	田丸雅智(2014)「E高生の奇妙な日常」『野性時代』12月号	E高生
	西島伝法(2014)「環形鋼」『SFマガジン』4月号	環形鋼

	中澤日菜子 (2014) 「星球」『小説現代 8 月号』	星球
	中島たい子 (2014) 「いない人間」「いない人間」『小説宝石』8 月号	いない
	平岡 陽明 (2014) 「床屋とプロゴルファー」『オール読物』11 月号	床屋
	山田 宗樹 (2014) 「代体」『野性時代』7 月号	代体
	青崎 有吾 (2018) 「時計にまつわるいくつかの嘘」『読楽』2 月号	時計
	朝井 リョウ (2014) 「どうしても生きてる七分七分二四秒めへ」『小説幻冬』3 月号	七分七分二四秒めへ
『短篇ベストコレクション 現代の小説 2019』	朝倉 かすみ (2018) 「たんす、おべんと、クリスマス」『小説現代』5 月号	たんす
	朝倉 宏景 (2018) 「代打、あたし。」『小説現代』7 月号	代打
	小川 哲 (2018) 「魔術師」『SF マガジン』4 月号	魔術師
	呉 勝浩 (2018) 「素敵な圧迫」『小説現代』9 月号	素敵
	小池 真理子 (2018) 「喪中の客」『オール読物』9 月号	喪中
	小島 環 (2018) 「ヨイコのリズム」『小説現代』2 月号	ヨイコ
	佐藤 究 (2018) 「スマイルヘッズ」『小説現代』9 月号	ヘッズ
	嶋津 輝 (2018) 「一等賞」『オール読物』10 月号	一等賞
	清水 杜氏彦 (2018) 「エリア D」『ミステリアマガジン』7 月号	エリア
	高橋 文樹 (2018) 「p と q には気をつけて」『小説すばる』10 月号	p と q
	長岡 弘樹 (2018) 「傷跡の行方」『小説新潮』3 月号	傷跡
	帚木 蓬生 (2018) 「胎を墮おろす」『小説新潮』7 月号	胎

	平山 夢明 (2018) 「円周率と狂帽子」『小説宝石』1 月号	円周率
	藤田 宣永 (2018) 「銀輪の秋」『小説新潮』3 月号	銀輪
	皆川 博子 (2018) 「牧神の午後あるいは陥穽と振り子」『小説現代』5 月号	牧神
	米澤 穂信 (2018) 「守り株」『小説新潮』7 月号	守り株

3.2 分類基準

3.2.1 依頼場面の定義

依頼場面には、「写真を撮っていただけますか」のように、依頼の行動がはっきりとわかる表現の他に、「お手数をかけて申し訳ないのですが、できましたら写真を撮っていただけませんか」と相手の都合を伺ったり、「大学の HP にスピーチコンテストの写真を載せると、学外の人にも学部の活動が紹介できるので、スピーチコンテストの様子を写真に撮っていただけませんか」の波線のように、自分の状況を説明する前置きの表現などがあるが、本研究では、こうした表現は分析の対象とせず、依頼行動に直接関わる動詞や表現をその対象とした。依頼行動の場面の判断には、蒲谷 (2013) が「宣言」、「申し出」、「指示」などの分類を行った「行動展開の 9 類型」を参考にした (表 2)。下の表現は蒲谷が提示する「行動展開の 9 類型」の依頼の箇所を抜き出したものである。「行動展開の 9 類型」によると、依頼は、行動をするのは[A]あなた、その行動をするのかどうか決定をするのも[A]あなた、そして利益・恩恵を受けるのは[J]わたしと説明する。

表 2 「行動展開の 9 類型」

意図名	行動	決定権	利益・恩恵
依頼	[A]あなた 例 (アナタハ) シテクレマスカ (ワタシハ) シテモラエマスカ	[A]あなた	[J]わたし

出所：蒲谷 (2013 : p.231) をもとに筆者作成

3.2.2 可能形式の定義

可能形式の分類は、日本語記述文法研究会編(2020)で示す可能構文の述語の形態に基づいて行う。

- ①I型動詞 (動詞の語幹に「-e-ru」を接辞)
- ②II型動詞 (動詞の語幹に「-rare-ru」を接辞)
- ③スル動詞および「来る」の可能表現(「できる」「来られる」)
- ④「ことができる」
- ⑤「(し)かねる」
- ⑥「(し)うる」「(し)える」

抽出された語彙の品詞の判断が難しい時もあった、その際は語彙の品詞を判定ができる Web サイト「Web 茶豆¹⁾」を用いた。

3.2.3 可能形式の分類と人間関係

依頼場面に見られる可能形式の分類は、日本語母語話者と中国語母語話者が「写真を撮って欲しい」時に使用する依頼表現が、相手との関係性によって違うのかという点に着目し調査を行った相原(2008)の「依頼相手とその略記法」(表3)を参考にあまり親しくない人間関係を「疎」、親しい人間関係を「親」にわけた。さらに「疎」「親」に加えて話し手と相手の間柄を「上」「やや上」「同」の3つに分けた。

表3 「依頼相手とその略記法」

親疎	地位	具体的な人物設定	略記法
挨拶程度	上	会えば挨拶をする程度の間柄	疎・上
	やや	会えば挨拶をする程度の間柄の1・2歳年上の先輩	疎・やや上
	やや上		
	同	会えば挨拶をする程度の間柄の同学年	疎・同
親しい	上	親しい教授	親・上
	やや	親しい先輩	親・やや上
	やや上		
	同	同学年の友達	親・同

出所：相原(2008：p.3)

4. 分析結果

4.1 依頼場面で使われる可能形式

分析の結果、『短篇ベストコレクションー現代の小説2015』と『短篇ベストコレクションー現代の小説2019』の29作品の小説の中で、依頼場面で使われていた可能表現は15件あった。それを日本語記述文法研究会が示す可能構文の6つの形式に分類した結果が(表4)である。15件のうち、日本語の依頼場面で1番多く使われた可能形式は「I型動詞」の13件で、次に「～できる」と「～ことができる」が1件ずつあった。

表4 依頼の意味で使われた可能形式と可能表現

形式	合計	表現
I型動詞	13件	<p>N+もらう+可能+疑問</p> <p>「お茶<u>もらえますか</u>？」(時計 p.10)</p> <p>Vて+もらう+可能+疑問</p> <p>「降ろして<u>もらえますか</u>」 (傷跡 p.531)</p> <p>Vて+もらう+可能+否定+疑問</p> <p>「ちょこっとコツを伝授して<u>もらえませんかね</u>」(床屋 p.416)</p> <p>「ところあの車のことです… もう暫く貸して<u>もらえませんか</u> <u>?</u>」(円周率 p.593)</p> <p>「睡眠モードを解除して<u>もらえませんか</u>」(代体 p.499)</p> <p>「できるだけこのロゴが入るよ うに撮って<u>もらえないかな</u>」 (床屋 p.426)</p> <p>「君のほうからちょっと口添え して<u>もらえないか</u>」(時計 p.28)</p> <p>V+助動詞+いただく+可能+疑問</p> <p>「では、見たことのない野菜につ いて、先生自身の言葉でお聞かせ</p>

		<p><u>いただけますか</u>」(p と q p.484)</p> <p>V て+いただく+可能+疑問</p> <p>「面白い話を思い出したのですが、聞いて<u>いただけますか</u>ね」 (流離人 p.9)</p> <p>V て+いただく+可能+否定+疑問</p> <p>「すみません、写真をとっていた<u>だけませんか</u>」(正雄 p.172)</p> <p>「もしお邪魔でなければ、少しお話を<u>させていただけますか</u>」 (代体 p.504)</p> <p>N+ねがう+可能+疑問</p> <p>「ご<u>教示ねが</u>えますか」 (流離人 p.23)</p> <p>N+助詞+頼む+可能+疑問</p> <p>「演算は<u>頼めるかい</u>」 (p と q p.484)</p>
できる	1	<p>V+できる+と助かります</p> <p>「できましたら、十小の近くまで<u>お願いできると助かります</u>」 (傷跡 p.518)</p>
ことができます	1	<p>V+ことはできる+疑問</p> <p>「今日なんだけど、少し早めに小屋にくる<u>ことはできますか</u>」 (星球 p.327)</p>

4.1.1 「I型動詞」を使った可能表現

「I型動詞」の可能形式を使った可能表現は、授受動詞の「～もらう」「～いただく」の可能形式に否定形や疑問形を接続した形が 13 件中 11 件と一番多かった。特に「降ろしてもらえますか」(傷跡 p.531)のように動詞の「て形」と授受表現の可能形式が接続した表現が 11 件中 9 件と最も多かったが、他の 2 件の授受表現の可能形式は、「お茶もらえますか」(時計 p.10)のように名詞に接続したり「では、見たことのない野菜について、先生自身の言葉でお聞かせいただけますか」(p と q p.484)のように、助動詞が付属した動詞と接続した可能表現が使われていた。

また「I型動詞」の可能形式を使った可能表現のうち 13 件中 2 件は、依頼の意味を持つ「願う」や「頼む」が「ご教示ねがえますか」(流離人 p.23)のように使われていた。

4.1.2 「～できる」を使った可能表現

「できる」という可能形式を用いた表現は 15 件中 1 件あった。「できましたら、十小の近くまでお願いできると助かります」(傷跡 p.518)のように、「できる」が他の動詞に接続した形で使われ、さらに条件の意味を持つ「と」に後続して使われていた。

4.1.3 「～ことができる」を使った可能表現

「～ことができる」を使った表現は 15 件中 1 件あった。「今日なんだけど、少し早めに小屋に来ることはできますか」(星球 p.327)のように動詞の辞書形に「～ことはできる」を接続し疑問形にして使っていた。

4.2 依頼の意味で使われる可能形式と依頼相手との関係

次に、4.1 で抽出された依頼の意味で使われた可能形式と表現を、相原 (2008) の「依頼相手とその略記法」に対応させて分析を行った。人間関係があまり親しくない「疎」の時(表 5)と人間関係が親しい「親」の関係(表 6)に分けた。そして「疎」と「親」の両方に人間関係が「上」「やや上」「同」かを対応させて分類を行った。空欄はその表現が使われていなかったことを意味している。共通して言えることは、人間関係が「上」の時に、「やや上」と「同」よりも可能形式を依頼場面で使っていることが多いということである。

4.2.1 人間関係が「疎」の時の可能形式と可能表現

人間関係があまり親しくない「疎」の時、依頼の意味で使われた可能形式は「I型動詞」が 8 件中 7 件と一番多かった(表 5)。動詞の「て形」に授受動詞の「～もらう」や「～いただく」の可能形式を接続させ

た表現が多かった。しかしながら (3) のように名詞に「～もらう」の可能形式を接続した表現もあった。

(3) 「お茶もらえます?」 (時計 p.10)

探偵の仕事をしている主人公に、都内をなわばりとして独自の情報網で事件を仕入れ、手頃な探偵に斡旋しマージンを受け取る仲介屋の若い男性が主人公に発した言葉である。主人公はこの男をあまり好ましく思っていないので距離をおいて接している。しかし、部屋にきた仲介屋の男は、主人公に向け「お茶もらえます?」と発した。相手である主人公は、この言葉を聞いたあとやはりこの男は失礼な人だと思っている。前田 (2021) が示す「～してもらえる?」のバリエーションの中でも「～もらえる」は一番丁寧度の低い表現であること、名詞にあたる「物」が自分の利益のなるように話し手に依頼していること、仕事を紹介するので仲介屋の男は主人公よりも上の立場の人間であることが考えられるが、仲介屋が若い男でかつ上の立場の人間が、仕事を紹介してもらっている下の人間に発言をしているため、相手に失礼な印象を残している。このことから、「N+もらえる+疑問形」を使うことは相手に失礼な印象を与える可能性があることがわかる。

次に人間関係が「疎」の時でも「～できる」の可能形式を用いた表現が (4) のように使われている点がある。

(4) 「できましたら、十小の近くまでお願いできると助かります」 (傷跡 p.518)

ヒッチハイクをした主人公が、車に乗せてくれた運転手に発した言葉である。金 (2022) では「～できる」系は丁寧さに劣る点が指摘されていたが、「～できる」であっても他の動詞と接続したり、「と」など

の条件を表す言葉と接続すると、あまり親しくない人間関係の時でも使うことができることがわかる。

表 5 人間関係が「疎」の時の可能形式と可能表現

	疎			計
	上	やや上	同	
I型動詞				
N+もらう+可能+疑問		1		1
Vて+もらう+可能+疑問		1		1
Vて+もらう+可能+否定+疑問	1			1
V+助動詞+いただく+可能+疑問	1			1
Vて+いただく+可能+疑問	1			1
Vて+いただく+可能+否定+疑問	2			2
N+ねがう+可能+疑問				
N+助詞+頼む+可能+疑問				
できる				
V+できる+と助かります	1			1
ことができる				
V+ことはできる+疑問				
合計	6	2		8

4.2.2 人間関係が「親」の時の可能形式と可能表現

人間関係が「親」の時、可能形式を使った可能表現は全部で7件だった (表 6)。「疎」の時と異なるのは、「I型動詞」が授受表現の可能形式だけでなく、依頼の意味を持つ「願う」や「頼む」といった動詞が可能形式も使われているという点である。次に人間関係が親しい時は相手が「上」であっても「～いただく」の可能形式は使われず「～もらう」の可能形式を使った可能表現が使われていた。「頼む」の可能形式は、(5) のように仲の良い友達関係の時に使用された。

(5) 「演算は頼めるかい」 (p と qp.484)

また(6)の「願う」は、軍人である主人公が、主人公よりも上の階級の軍人に依頼している場面で使われた言葉である。主人公は相手の態度から相手は見た目ほどやかましい人物ではないかもしれないと主人公は心理的距離を縮めている。

(6)「ご教示ねがえますか」 (流離人 p.23)

次に、話し手より立場が上の人間でも「～いただく」ではなく「～もらえる」の可能形式を(7)のように使っていた。

(7)「睡眠モードを解除してもらえませんか」
(代体 p.499)

長い間お世話になっている医者という立場が上の人物に対して主人公である患者が発した言葉である。患者の体を治療している時に、一時的にロボットの中に意思を移動したが、治療が終わり意思を患者の体に戻した時、何らかの理由で、主人公の意思の一部がロボットに残ってしまった。そのロボットについている睡眠モードを解除して欲しいとお願いしているときに使われた言葉である。

一方、疑問点も残った。まず軍人の言葉である。主人公は相手に対して心理的距離を縮めていることから「親」に分類をしたが、「～願いますか」は軍人が使う言葉であることも考えられる。

つぎに、(5)も(6)も(7)も主人公が今いる自分の環境に不満を抱いていることである。(5)は寝ぼけている友人に向かって発した言葉である。「今の状態で演算ができるの」という皮肉の気持ちをあえて丁寧さで表していることも考えられる。また、(6)主人公はこの時、学業途中で戦地へ派遣されることになった。留守部隊隊長から口頭で指示されいいかげんなものだと思っている。(7)も主人公の意思がロボットに残ったことをよく思っていない。依頼の意味で使われる可能表現は人間関係だけでなく、話し手の気持ちも関係があることが考えられる。

表6 人間関係が「親」の時の可能形式と可能表現

	親			計
	上	やや上	同	
I型動詞				
N+もらう+可能+疑問				
Vて+もらう+可能+疑問				
Vて+もらう+可能+否定+疑問	2	1	1	4
V+助動詞+いただく+可能+疑問				
Vて+いただく+可能+疑問				
Vて+いただく+可能+否定+疑問				
N+ねがう+可能+疑問	1			1
N+助詞+頼む+可能+疑問			1	1
できる				
V+できる+と助かります				
ことができる				
V+ことはできる+疑問		1		1
合計	3	2	2	7

5. 考察

以上、日本語の小説の依頼場面で使用される可能形式を対象に、依頼場面に現れる可能表現の種類と人間関係によって見られる可能表現の違いについて調査を行った。今回のデータの分析を踏まえ、本研究で設定した研究課題について検討してみる。

まず、【研究課題1】どのような可能形式が依頼場面で使われるかという問いに対しては、依頼の意味を含む「I型動詞」「～できる」「～ことができる」が使用されていた。「I型動詞」は授受表現「～もらう」「～いただく」の可能形式が多かったが、依頼の意味を表す「願う」「頼む」などの動詞も可能形式にして使用されていた。どの可能形式も単独で使用されることは少なく、他の動詞の「テ形」や「辞書形」に接続したり、後接に否定形や疑問形と接続をしていた。「～できる」に関しては条件を表す「と」とも接続をしていた。単独で使用する可能表現もあったが、4.2.1で述べたように、相手に失礼な印象を残していた。依頼場面で可能形式を使用する際は、単独で使

用せず、他の語彙に接続をして使用したほうが丁寧さを表せることがわかる。

次に、【研究課題2】依頼場面に見られる可能形式は、依頼相手との関係によってどのような違いがみられるのかの問いについては、まず「疎」の時と「親」を比べてみると、「疎」の時に現れた数は8件、「親」は7件と1件だけ「疎」のほうが多かった。また共通点として「疎」も「親」も人間関係が「上」の時、「やや上」や「同」よりも可能形式を使っていることが多かった。特に「疎」の時は「上」が6件に対し、「やや上」は2件で「同」には見られなかった。これは授受表現と可能形式を使用することで丁寧さを表している例だと考えられる。

人間関係が「疎」の時は「～もらう」「～いただく」の可能形式を使った表現が多かったが、「親」の時は「～いただく」は相手が「上」の人でも使用をしていなかった。親しい人間関係の時には、「上」の関係の間柄でも非敬語（前田 2021）が使えるのは、相手と話し手が感じる距離が近くなったことが考えられる。しかし「親」「疎」だけではわけられない課題も残った。寝ぼけている友人と会話する主人公も、軍人である主人公も、自分の意思がロボットの中に残ってしまった主人公も、状況が満足している状態ではない。依頼の意味で使われた可能表現は、話し手の気持ちも影響していることが考えられる。

そして、「親」の時は「～もらう」の可能形式を使った表現や、依頼の意味を持つ動詞の可能形式が依頼の意味で使われていた。「親」の時に可能動詞がつかわれている点に関しては、市川（1991）で可能動詞はインフォーマルの時に使われやすいことを指摘しているように、依頼場面でも「親」の関係の時に授受動詞の可能形式以外の動詞が現れたと考える。

また「疎」の時の特徴として、「～できる」を使って「お願いできると助かります」という表現があまり親しくない初対面の相手でも使用されていることから、「～できる」が他の語彙と結びつくことで丁寧さを表せることがわかった。

そして、主人公が「疎」と思っている人物から授受表現の「～もらう」を可能形にして「お茶もらえます？」と言われた。主人公はこれを失礼だと思っている。「～もらう」の可能形式は授受表現の可能形式だが丁寧さを表せていないことが考えられる。

6. 今後の課題

本研究では、日本語の依頼場面で使われる可能表現を相手との関係性も含めて調査を行い、依頼場面に現れる可能形式の様相を示した。

依頼場面に現れる可能形式は、「I型動詞」が多く、特に授受動詞の可能形が多かった。また「～できる」を使用した依頼表現でも、表現方法によっては相手への配慮が示せること、授受表現「～もらう」の可能形を単独で使うことは相手が失礼だと思えるので、使用場面には気を付けたほうが良いことがわかる。

依頼場面で可能表現も導入することは、日本語学習者にとって負担が大きいかもしれない。しかし、日本語学習者が意図しないところで相手に失礼な人だと思われる可能性を回避するためには、依頼場面の導入時に可能表現を提示したり（前田 2022）、単独で可能表現を使用すると相手に失礼な印象を与えるあることを学習者に伝える必要があるだろう。

人間関係と依頼場面で使われる可能表現の分析を通して、話し手の「気持ち」も可能表現に影響することが関係してくる可能性も見えた。今後の課題としては、「親」「疎」だけでなく依頼場面に見られる可能表現と依頼内容との関係性についても明らかにすることも必要だと考える。

参考資料

日本文藝家協会編（2015）『短編ベストコレクション 現代の小説 2015』徳間書店

日本文藝家協会編（2019）『短編ベストコレクション 現代の小説 2019』徳間書店

Web 茶豆 <https://chamame.ninjal.ac.jp/index.html>

（2023年8月18日閲覧）

引用文献

相原 まりこ（2008）「依頼表現の日中対照研究－相手に応じた表現選択」『言語情報科学』6, 1-18
荒井 文雄（2006）「日本語における可能表現の習過程」『京都産業大学論集．人文科学系列』34, 1-

23

- 蒲谷 宏 (2013) 『待遇コミュニケーション』大修館書店
- 金 玉英 (2022) 「可能形式を用いた日本語の「依頼表現」『ことば』43, 52-67
- 高 恩淑 (2010) 「韓国語における可能表現の意味特徴と用法」『一橋大学国際教育センター紀要』1, 1-30
- 小柳 かおる、峯 布由起 (2016) 『認知的アプローチから見た第二言語習得』くろしお出版
- 渋谷 勝己 (1993a) 『日本語可能表現の諸相と展』[博士論文, 大阪大学],
<https://hdl.handle.net/11094/11684> (2023年8月20日参照)
- 渋谷 勝己 (1993b) 「幼児の可能表現の獲得」『無差』1, 23-40
- 渋谷 勝己 (1998) 「中間言語における可能表現の諸相 Variation in Interlanguage—the Case of Japanese Potential Expressions—」『阪大日本語研究』10, 67-81
- 関 承 (2013) 「中国語母語話者における日本語可表現の習得について—無対動詞の有・無標可能表現に着目して—」『国際協力研究誌』20 (1), 21-30
- 石 一含 (2019) 「日本語・中国語・英語の可能表現に関する対照研究—日本語の自動詞無標識可能表現から—」『地球社会統合科学研究』10, 9-23
- 堤智昭, 小木曾智 (2023) 「複数の UniDic 辞書による形態素解析支援ツール『Web 茶まめ』の実装と運用」、情報処理学会論文誌、Vol.64, No.3, pp.749-757, <http://doi.org/10.20729/00225271>
(2023年8月20日参照)
- 寺村 秀夫 (1982) 『日本語のシンタクスと意味』くろしお出版
- 日本語記述文法研究会編 (2020) 『現代日本語文法 2

第3部格と構文第4部ヴォイス』くろしお出版

- 前田 直子 (2021) 「敬語表現と文法—授受動詞の用法を中心に—」『待遇コミュニケーション研究』, 52-67
- 宮島 達夫、仁田 義雄編 (1996) 『日本語類義表現の文法 (下) 複文連文編』くろしお出版
- 森 敦子 (2014) 「日本語教育における「見える」「見られる」の提示方法に関する一提案」『奈良教育大学国文：研究と教育』, 175-163

(Received: August 20, 2023)

(Issued in internet Edition: September 1, 2023)